



奈良県  
**いのちの教育**  
いのちの教育実践研究校取組報告書 **2020**

令和2年度「いのちの教育実践研究事業」

奈良県教育委員会事務局学校教育課





## 奈良県が目指す「いのちの教育」

- 動物への思いやりを深め、「いのち」の大切さを実感させる。
- 他者との関わりを深めながら、情操を豊かにする。
- 野生動物を含む自然環境の保護についての理解を高める。

## 「いのちの教育プログラム」とは？

うだ・アニマルパークで実施している「いのちの教育プログラム」では、私たちと動物との関わりに気づき、動物にも感情や要求（ニーズ）があるということ、動物の「いのち」が私たち人間と同じであることを感じ、それぞれの動物の「いのち」がよりよく生きるために私たちがどのような責任を負い、果たすべきなのかを考えます。

奈良県うだ・アニマルパークでは、動物を通して「いのち」の大切さを学ぶ「動物愛護教育」を行ってきました。そこから、自分を含めたあらゆる「いのち」を大切に、共感する心を育む「いのちの教育～ヒューメインエデュケーション」として、新たな一步を踏み出しています。この「いのちの教育プログラム」を学校教育の一環として体験していき、継続的にその効果を相互に確認し合えるモデル校を募集しています。

## うだ・アニマルパークについて

宇陀市大宇陀の県畜産技術センターでは、60年以上にわたり、牛・豚・鶏などの試験研究を行い、様々な成果を上げています。平成13年4月に大家畜（牛）部門が宇陀郡御杖村の「みつえ高原牧場」に移転したことによる敷地の有効活用として、動物とのふれあいを通して次代を担う子どもたちの健全な育成を目指すとともに、県内外のみなさんにレクリエーションの場を提供し、社会全体の発展に寄与することを目指し、うだ・アニマルパークを設置することにしました。

うだ・アニマルパークは、人と動物とのふれあいを通して、動物を学び、動物から学び、そして動物のために学ぶ「いのちの教育」を行い、広く県民に、動物全般に対する理解を促進するとともに、動物に対する愛護の思想について普及啓発を図り、豊かな社会づくりに寄与することを目的とした施設です。

## 「いのちの教育実践研究事業」とは？

奈良県教育委員会は、うだ・アニマルパークにおける動物とのふれあい等を生かした「いのち」に関する学習を核に、教育活動全体で生命を尊重する心を育てる実践的な研究を行う「いのちの教育実践研究校」を指定し、その取組を県内に広く知らせています。

令和2年度は奈良市立大安寺小学校と宇陀市立大宇陀小学校を指定し、取組を実施していただきました。



# 宇陀市立大宇陀小学校



## 『いのち』って なんだろう？

～ぼくらは みんな つながっている!!～

### 研究課題

本校は奈良県北東部に位置し、歴史と自然に恵まれた環境の中で子どもたちは生活をしている。本校の学校教育目標を「人間性豊かなたくましく生きる子の育成」と定め、めざす子ども像を「生き生き活動するおおっ子」として、日々教育活動に取り組んでいる。

第1学年では、本プログラム「いのちの教育」を通して、動物のいのちの大切さや共に生きることの素晴らしさを学び、自分のいのちも人のいのちも大切にしようとする心を育てることをねらいとしている。さらに、自分にできることは何かを考え、それを実践していく力の育成を図りたい。

### 取組の概要

- 7月…わたしたちと動物の関わり ～わたしたちを取り巻く動物を知る～
  - 動物を分類し、関わりを知る。
- 7月…わたしたちと動物のいのち ～動物に必要なことを考える～
  - 絵本、図鑑、映像資料から動物の暮らしを観察する。
- 8月…わたしたちと動物のいのち ～動物に必要なことを考える～
  - 動物の特徴に注目し、絵で表現する。
- 9月…わたしたちと動物のいのち ～動物の気持ちや動物に必要なことを考える～
  - 人と動物の関わりをまとめる。
- 10月…動物のためにわたしたちができること ～わたしたちがすべき行動を考える～
  - 人間が動物へ果たす責任を知る。
- 11月…動物のためにわたしたちができること ～わたしたちがすべき行動を考える～
  - まとめの作文を書く。 ○はりこの動物を作る。

### 研究の成果

- ・子どもたちの身近にあるうだ・アニマルパークと連携することで、動物と自分のいのちの存在を自分ごととして具体的に感じることができた。
- ・自分の心音を聞く活動は、子どもたちにとってよい経験となり、自分が「生きている」ことを実感できるよい取組となった。また、自分の心音と友達の心音の違いを比べ、一人一人個性をもっていることに気付くことができた。
- ・はりこの動物が毎回登場することで、動物に愛着をもち、意欲的に学習に臨むことができた。
- ・給食の際に、「いのちをいただいているのだから、しっかり食べよう。」と、給食をなるべく残さず食べようとする意識をもつ子どもが増えた。
- ・友達が怪我をしたときや泣いているときに、優しく声をかけてあげることができる、思いやりのある子どもたちが増えた。

### 取組の様子



#### ■「いのちの教育」の感想

- ・自分の心臓の音を初めて聴いて驚いた。自分は生きているんだなあと思った。
- ・動物を飼ったら、しっかりと世話をしなければならないと思った。
- ・飼っている猫にもっとやさしくしてあげようと思った。
- ・野生動物のいのちを守るためにも、ゴミを捨てないようにしようと思った。
- ・僕たちがごはんを食べるときにはいのちをいただいていることが分かった。いのちを無駄にしないように、ごはんは残さず食べるようにしたい。

#### ■はりこの動物づくりをした感想

- ・動物が今までよりも好きになった。
- ・自分がかわいがっているペットをつくれてよかった。
- ・動物のことを考えながら工作をした。できた作品がかわいくてうれしかった。



# 奈良市立大安寺小学校



## アニマルも みんなあつまる 地球丸◎

### 研究課題

本校は、「人権尊重を基盤に、他者とのつながりの中で、一人一人の子どもに自信と誇りと夢を」という学校教育目標を掲げている。校内では、うさぎを二羽飼っており、運動場の入口に小屋を設置しているため、いつでも子どもたちが目にすることができる。小屋の前にはうさぎが動き回れるようなスペースを設けてあり、子どもたちはうさぎとすぐにふれあうことができる。本校の子どもたちは生き物を好み、運動場で虫を探したり観察したりして生き物と親しんでいる。

今年度の実践研究課題は、子どもたちの自己有用感を育むことである。そのために、生活科においては、「野菜を育てよう」や「自分ものがたり」の取組で、いのちあるものの成長を観察したり、自分が育ててきた過程を振り返ったりして、「いのち」の大事さや尊さを感じ取り、自分がいのちあるものを育てる一役を担っていることや、家族の一員であることの実感をもつ学習を行う。加えて、「へそのお」の取組も行うことで、より一層「いのち」を大切にすることを育むようにしていく。

### 取組の概要

本校では、子どもたちの自己有用感を高める活動の一環として、第2学年でいのちの教育を行っている。その中で、多くの人たちのおかげで生かされている自分に気付くとともにいのちの大切さを考えるために野菜栽培や秋みつけといった、生活科の学習も行っている。また、国語科では「動物えんのじゅうい」という教材を使用して学習を行い、いのちに関わる仕事について、キャリア教育の視点で学習した。

その総まとめとして、「いのちの教育 小学生プログラム」を位置付け、学習を行った。第1回目は9月下旬、第3回目は11月上旬に本校で、第2回目は10月下旬にうだ・アニマルパークで学習した。

第1回目は、「私たちと動物の関わり」について学習した。子どもたちは、猫や犬といった身近な動物だけでなく、野生動物や家畜といった動物も自分たちともつながりがあるということに驚きと気付きがあった。

第2回目は、「動物たちと私たちのいのちは同じ」というテーマで学習した。一人一人が自分の心臓の音を聞かせてもらい、生きている音に感動している姿が見られた。また、動物にも気持ちがあることについて学習した。

第3回目は、「動物たちのために私たちができること」について学習した。動物の世話をするだけでなく、食料問題、環境問題といった大きなテーマについても考えることができた。

その他に、いのちに関わる題材として「生まれるということ」、「へそのお」をとりあげ、生活科の学習では獣医師をゲストティーチャーとして招き「いのちの授業」を実施した。

### 研究の成果

うだ・アニマルパークからお借りした動物のほりこなどを使用することで、子どもたちはより身近な問題として、動物たちのことを考えられたようである。

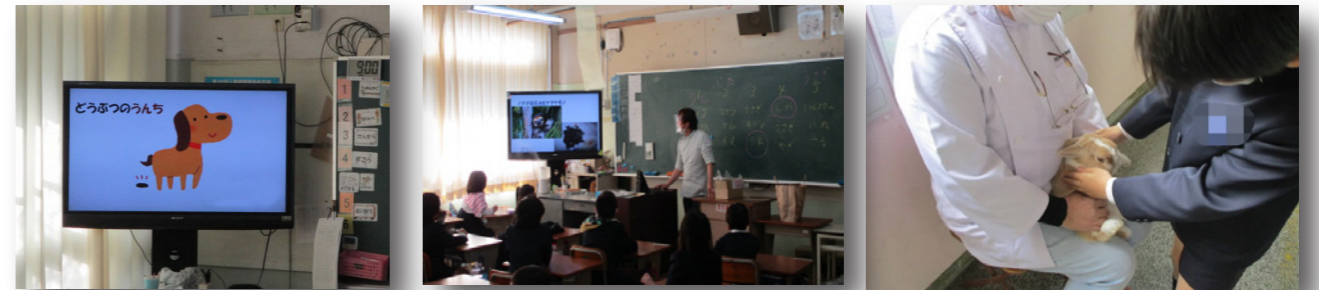
「あなたが、動物のために何かできることがありますか」のアンケートには「飼っている犬にえさをあげたり、散歩したりする。」や、「空気をよごさなかったり、ごみをすてたりしたらあかんからしないようにする。」「がんばって、残さず、りょうりを食べる。」などといった感想があった。

子どもたちには、周りの動物を大切にすることとは、自分自身も大切にすることにつながることを毎時間伝えてきた。今回の「いのちの教育」を実施したことにより、身近な動物を大切にすることを理解するとともに、いのちを大切にするという自覚が少しずつ芽生えていったと思われる。

### 取組の様子

#### ■校内での取組

- 生活科の学習でゲストティーチャーとして獣医師を招き、「いのち」について学習した。子どもたちは、ウサギの心臓の音を聞いたり、動物のうんちのお話を聞いたりして「いのち」について様々な角度から学ぶことができた。



#### ■うだ・アニマルパークでの取組

- 牛の乳しぼりを体験することで、自分たちの口に入るものから、自分たちは動物たちに生かされているということを学習した。
- 聴診器を使って、自分の心臓の音を聴かせてもらい、生きていることを実感していた。
- うだ・アニマルパークの方に「私たちと動物の関わり」について教えていただいた。

